

国際ロータリー第2750地区  
東京六本木ロータリークラブ  
FOUNDED IN 2004

Rotary  
Club of Tokyo Roppongi



# 多様性の高いメンバーとの「奉仕」と「親睦」

## 東京六本木ロータリークラブの特色

東京六本木ロータリークラブは、2004年11月22日に東京西ロータリークラブをスポンサークラブとして創立されました。国際ロータリー第2750地区に所属しています。

日本有数の商業地域六本木で、ロータリーの目的に基づく五大奉仕「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」を展開しています。

当クラブは、「東京を代表する地域の一つである六本木で、地域社会と一緒に、国内外で地位向上を図り、会員同士がひとり一人の能力と経験を活かし、理解・尊重しあえる場とする。」とのビジョンを掲げ、六本木を拠点とした様々な奉仕活動は、国際ロータリーから「ゾーンレベルのチェンジメーカー賞」「RI意義ある業績賞」や「会長賞」など様々な賞を受賞するなど高い評価を得ています。

### メンバーについて

東京六本木ロータリークラブのモットーは、「エンジョイ・ロータリー」。さまざまな事業を行う会員は、多様な年齢・性別・国籍・職業など、それぞれ個性的。楽しみながら親睦を図ることで社会貢献につながるロータリーのイベントに、積極的に参加する、アクティブな人たちが集まっています。

### 環境への貢献



●「環境シンポジウム」開催  
2007年、当時の若林環境大臣をはじめ、多くのゲストを招いて「環境シンポジウム」を開催。写真は「水保全」をテーマにしたパネルディスカッション。



●「心の花も咲かせよう」  
地元の小学生が丹精込めて育てた花で、六本木通りに花壇づくりをする取り組みを開催。人と人のつながり、人や他の生物を尊ぶ心を育て、人々の心の中にも花を咲かせようというプロジェクトです。



●タイ・ミャンマー難民キャンプへの支援  
タイ国のミャンマー難民キャンプに簡便な伝達手段として必要とされている拡声器を設置しました。



●海外留学生への支援  
ロータリー財団国際親善奨学生にクラブ独自で奨学金を支援しました。また、日本で学ぶ海外留学生を支援する米山記念奨学生のサポートの他、インターナショナルスクールISAKのサマープログラムにミクロネシア連邦から留学生を招待しています。



●インターナショナルスクールへの支援  
日本に数年間滞在するインターナショナルスクールの生徒たちをロータリアンが経営する日本企業に招き、視野を広げてもらいます。日本のビジネスの一端に触れることで日本への理解を深めるきっかけとなっています。

# 適応力を高める「青少年プログラム」

## さまざまな奉仕活動で 地域と社会に貢献

東京六本木ロータリークラブは、様々な奉仕活動のうち、地域への貢献を第一として地元の公立小中学校、高等学校、インターナショナルスクールなどと協力した若い世代の「人材育成」に力を注いでいます。

また、海外留学生への支援など世界へ目を向けた奉仕活動をおこなっています。

ロータリアンの多彩な職業を活かした授業協力やインターンシップの受け入れなどの奉仕活動は恒例となり、ロータリアンも若い世代との交流を楽しんでいます。地域や社会のニーズに対する適切な奉仕活動は、ロータリアンにとって永久のテーマです。



### ●キャリア支援

ロータリアンが生徒たちに自らの経験に沿った仕事について具体的に話し、生徒からの質疑にも応じる特別授業。人生そのものについて相談を寄せる生徒もあり、ロータリアンとの絆も深くなっています。

## 人材育成

●東京都立六本木高等学校への奉仕活動  
自己の能力や適性を十分に活かしきれなかった生徒たちに対して、ロータリークラブならではのキャリアを活かした様々な形で、職業奉仕活動を行っています。



●東京都立芝商業高等学校インターンシップ受け入れ  
働く楽しさを若い世代に経験してもらうため、ロータリアンの経営する多彩な企業へのインターンシップを積極的に実施しています。

## 国際貢献



### ●比国育英会「バギオ基金」への支援

1903年(明治36年)にフィリピンへ移住した日本人がバギオ山頂に続くベンゲット道路建設に従事し、定住しましたが、第二次世界大戦の敗戦により、残留日本人及び現地日系人は、バギオ山中に逃げ込んで生活していました。

戦後バギオに赴任したシスター・テレシア海野が「バギオの子供達への教育」をテーマに支援活動をし続け、それを知った日本のロータリアンによって、1981年9月に「バギオ基金」が設立されたのです。

それ以来、ロータリー活動の日本を代表する組織と運動と実績を誇る団体となり、2009年7月1日より「一般財団法人比国育英会バギオ基金」となりました。

バギオ基金は、フィリピンにおける日系及び一般青少年のために、育英資金を提供しその奨学を援助し、日本への留学を支援しています。

東京六本木RCでは、2022年度より、淺田会員が一般財団法人「比国育英会バギオ基金」会長に就任し、様々な寄付活動やフィリピンバギオへの訪問交流へ参加しています。

# より大きなインパクトをもたらす「復興支援」

## 東日本大震災 復興支援

### 東日本大震災被災地への長期的支援

2011年3月11日、東北地方を襲った東日本大震災。この未曾有の災害により、東北地方の太平洋沿岸は甚大な被害を受け多くの犠牲者を出しました。また、この地震と津波によって引き起こされた福島第一原子力発電所の事故により放射性物質で汚染された地域では、避難を余儀なくされた地域住民が自宅に帰還できない状況にあります。

震災直後から、ロータリーではさまざまな支援の手を差し伸べています。復興への道のりが長期化するにしたがい、当初の緊急的な生活必需の「物資の支援」から精神的な癒しや住み良い環境を創成するための「心の支援」へと支援内容も変化しています。

東京六本木ロータリークラブでも、震災直後から被災地のニーズに合わせた支援を毎年行っています。今後も引き続き復興状況や被災地の要望に応じた具体的、長期的な支援活動を計画・実施していきます。

#### 2011年

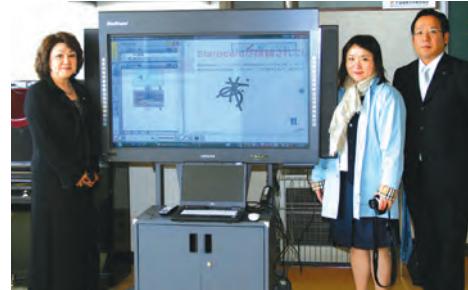
##### 津波被災地の小中学校へ学習教材を!

津波で多くの教材を消失した小中学校。被災地であるRI第2520地区仙台南ロータリークラブの起案による「被災にあった小中学生を支援するプロジェクト」に共同参画し、何が今現地の小中学校に足りないかを見極めた支援を行いました。

#### 2012年

##### 全村避難している子どもたちに夢と希望を!

放射線被災によって全村避難を余儀なくされ、仮校舎で授業を続けている福島県飯舘中学校の子どもたちに元気に夢を切り開いてもらうため、RI第2530地区郡山アーバンロータリークラブと共に、運動部のユニフォームを寄贈しました。



寄贈品の教材  
DVDセット

##### ●『沿岸被災地小中学校支援プロジェクト』

地震や津波によって被災した宮城県内の小中学校に「今必要な機材・教材」のニーズを聞き取り、11校にOV型プラズマ型電子黒板（上写真）、DVD、通学かばんなどの教材を寄贈しました。（下表参照）



被災地訪問のとき、小学校の校庭では元気に遊ぶ子供たちの姿が見られました。

#### ■ 宮城県内の小中学校へ設備・道具などの支援内容

学校名	支援内容
石巻市立大街道小学校	多目的ひな壇ワイド
石巻市立大谷地小学校	跳び箱、運搬車、マット、ダンボールカッター、ルーペ、自転車
石巻市立船越小学校	小学校社会DVD全18巻、理科DVD全20巻他
気仙沼市立気仙沼中学校	石膏型
気仙沼市立水梨小学校	加湿空気清浄機
亘理町立高屋小学校	塗装工事、ネットフェンス金網修理工事、軽量折り畳み椅子、リアカー、ワイド逆上がり補助版、コートブラシ
東松島市立赤井南小学校	鼓笛隊ユニフォーム
東松島市立大塩小学校	カーテン
南三陸町立志津川中学校	通学かばん
山元町立坂元小学校	インテリジェントプロジェクター、対流式ストーブ
山元町立山下小学校	OV型プラズマ型電子黒板、収納BOX、書画カメラ



##### ●放射線被災地飯舘中学校への 「ユニフォームの寄贈」

全村避難で仮校舎で授業を続けている子どもたちに元気になってもらおうと、野球、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、卓球の6つのクラブと、震災後初めて参加する駅伝大会の選手のためのユニフォームを寄贈しました。

駅伝大会では寄贈されたユニフォームを着用して元気に走る子どもたちの勇姿が新聞にも取り上げられ、その姿は避難生活を続ける人々に勇気を与えました。

# より大きなインパクトをもたらす「ポリオ根絶」

2013年

有事の際に役立つ放送設備は地域全体への貢献  
津波で全壊し高台へ移転した東松島市・のびる幼稚園に、プロジェクター、アンプ、スピーカーなどの放送設備一式を寄贈しました。この設備は有事の際、幼稚園内だけにはとどまらず、地域住民への避難情報の発信という役割を担うため、周辺地域にも貢献する支援となりました。



## ● のびる幼稚園(東松島市)での 「ありがとう 感謝の会」

震災時に全壊したのびる幼稚園の再建した園舎に「放送設備」を寄贈。園舎で開催された「ありがとう感謝の会」では、園児たちの元気いっぱいな歌声で「ありがとうの歌」とお遊戯でのおもてなしを受けました。

## 国際ロータリーのポリオ根絶運動

ポリオ(脊髄性小児麻痺)は、時として命さえも奪う伝染病で、主に5歳以下の幼児が感染します。国際ロータリーは1985年にロータリーの最大プロジェクトとなる「ポリオ・プラス」を開設し、以来20年以上にわたり8億米ドル以上の寄付を集め、全世界で20億以上の子供たちにワクチンを接種してきました。現在、ポリオの常在国は3カ国のみとなっています。

またロータリーは、ポリオ根絶に対する認識を高め、ロータリーのポリオとの闘いを分かち合うため、国際ロータリーの創立記念日である2月23日の週、ピラミッドなど世界の有名建造物に「END POLIO NOW」(今こそポリオ根絶のとき)というメッセージを投影しています。東京六本木ロータリークラブはこの趣旨に賛同し、2012年2月20日、東京で初めて六本木ヒルズにメッセージを投影するイベントを開催しました。「ポリオのない世界まであと少し」世界からポリオが完全に根絶されるまで、ロータリーの活動は続けられます。



# ポリオ根絶

## ●「END POLIO NOW」 メッセージ投影 点灯式



2012年2月20日午後6:00。カウントダウンに合わせて点灯ボタンが押され、六本木ヒルズと、隣接するハリウッドプラザに「END POLIO NOW」が投影されました。



点灯イベント会場の六本木ヒルズ周辺では、ポスター、横断幕、そしてアストロビジョンなどでイベントをPR。ロータリアンによるキャンペーン活動が展開され、ジャズバンドのミニコンサートなども開催されました。

# 参加者の基盤を広げる「国際奉仕活動」

## ミクロネシアへの 国際奉仕

東京六本木ロータリークラブとミクロネシア連邦とのつながりは2009年、当クラブ例会に招待したミクロネシア連邦共和国ジョン・フリット大使の「ロータリークラブが両国の架け橋になって欲しい」という卓話から始まりました。ミクロネシアは日本が統治していた時代(1920~1945)もあり、ポンペイ島パリキール地区にあるミクロネシア短期大学では日本語の教育も行われています。

そこで、2011年、2012年にはミクロネシアの学生をインターナショナルスクール主催のサマースクールに招待する支援を行いました。さらに



日本語教育の為に寄贈された教材資料

2013年より、不足している教材などを寄贈し、現地での日本語教育を支援する活動を開始。2013年のミクロネシアでの教育資材の贈呈式では、在ミクロネシア日本国大使やRI第2750地区ポンペイロータリークラブとの親交も深め、大使館のWebサイトでもロータリークラブからの支援として広報されました。

## 日本語作文コンテストの開催

さらにこれからは日本で働くことを希望する若者を育てることがミクロネシアの経済発展に寄与することを踏まえ、日本語への更なる関心の喚起のため2014年より学生に来日の機会を作ることを計画しました。そこで、東京六本木ロータリークラブ創立10周年を記念して日本映画を観ての日本語作文コンテストを主催し、その優勝者に日本旅行をプレゼントする事業を計画しました。この事業を少なくとも5年間は継続して行う

ために「ミクロネシア計画基金」として500万円を用意しました。

2014年の作文の課題映画は、スタジオジブリ製作アニメーション「耳をすませば」。厳正な審査の結果、21歳の女性、Miss. Karmi Soar (カルミさん) が優勝し、ミクロネシア短期大学で行われた表彰式では、日本大使の坂井眞樹氏の出席のもと、当クラブの代表団から一週間の日本旅行がプレゼントされました。



また表彰式当日、ポンペイロータリークラブに公式訪問されていたRI第2750地区の坂本俊雄ガバナーに事業の報告をするとともに、大使公邸で開催された懇親会では

コンテストに参加した学生、坂本ガバナー一行、ポンペイロータリークラブのみなさんとの親交を深めました。懇親会の席上、坂井大使と坂本ガバナーは「このような“ヒトとヒトをつなぐ”事業を大切にして活動を続けて行きましょう」と表明。

今後もミクロネシアと日本との架け橋の一端を担うべく、活動を続けていきます。



大使公邸で開催された懇親会(坂本ガバナー、坂井大使ご夫妻、山本会長、Mr.Konrad EnglbergerポンペイRC会長)

# 参加者の積極的なかかわりを促す「地域奉仕活動」

2023年10月29日(日)、R I 第2750地区のポリオ根絶イベント「世界ポリオデー2023」が開催され、総勢360人余りのロータリアンが、皆でEND POLIO NOWの赤いTシャツを着て東京駅仲通りをスタートし、約1キロのウォーキングで、銀座・泰明小学校をゴールに集結。日本横断サイクリングチャレンジ中の宮崎陽市郎ガバナーの到着をお迎えし、ポリオ根絶をテーマにトークショーが開催されました。



複数のメディア取材もあり、ロータリーの公共イメージアップにつながり、ポリオ根絶につながることを期待しています。

非常に気持ちのいい陽気で、楽しいウォークラリーでした。イベント終了後は、参加者で、銀座でビールやワインを飲み・美味しい食事を食べて、秋の午後を満喫いたしました。



## 地域奉仕

### 地域社会と共に活動する「六本木クリーンアップ」



当クラブでは、創立以来、六本木ヒルズ自治会と協力し、毎月第3土曜日の朝に開催される六本木エリアの清掃活動「六本木クリーンアップ」に参加しています。開催当日は、地元の自治会や企業のみなさん約200名とともに六本木の街を清掃します。この活動は、街をきれいにするだけでなく、犯罪の減少効果も生み出しています。



2021年5月25日警視総監より感謝状とメダルをいただきました。授与理由は、日頃の六本木クリーンアップの取り組みが地域の防犯活動に貢献しているというものです。これは偏に、六本木クリーンアップにご参加いただいている皆様のご協力、活動のおかげでございます。ありがとうございます。



## 創立 -2006 年度会長 小竹直隆 (故人)

## 「知り合って、楽しく学ぶロータリー」

振り返ると、2004年11月に初めて出会った41名の皆さんと一緒に、心ときめかせながら創立総会を迎えた時のこと、いまも鮮やかに蘇ってきます。この年を経て、歴代会長を始め皆さんのご尽力で、国際ロータリークラブから数々の表彰を受け等、私たちのクラブが、人も羨む、立派なロータリークラブに成長してきたことを、皆さんと一緒に、心から慶びたいと思います。初代会長としては、特別代表の佐藤晃一様と、初代幹事の小島篤様には大変お世話になったことを。改めて、篤く御礼申し上げます。有難うございました。



## 2006-07 年度会長 水島 裕 (故人)

## 「世界を見据えて進もう」

「ロータリーソングには歴史を感じる名曲が多いけれど、これから若いロータリアンにはじみにくいのではないかと思い、若く軽やかなイメージのロータリーソングを作りました。」今は故人になられた水島裕氏の言葉です。六本木RCのオリジナルソング「ロータリーの花」と「世界のどこかでは」は、水島バスト会長が作詞・作曲し、クラブの例会で歌い継がれています。2007年4月に「健全な水循環の再生とヒートアイランド現象の緩和を目指して」をテーマとする「環境シンポジウム」を開催されました。



## 2007-08 年度会長 荘田吉夫

## 「一步一步進もう」

クラブ発足以来3年、順調に目覚しい発展を遂げつつある時期に会長を仰せつかり、この良いペースを維持発展させて次につなぐことを最大の任務と心得、あまり先を急がず背のひをせずに実力をつけて将来の開花を期すことが必要と考え、「一步一步進もう」にそのような思いを込めました。何より皆が例会に出ることが楽しみになるような会員同士の親密な雰囲気を高めることを目指しました。クラブの基盤、経験、知識は比較にならないほどしっかりしたものになり、活動の幅も増えています。



## 2008-09 年度会長 浅田豊久

## 「エンジョイ ロータリー」

東京西RCから転籍していた初代幹事の小島さんが約束通り西RCへ戻る、というタイミングで不肖は西RCから移籍しました。佐藤特別代表が標榜された「日本一品格あるロータリークラブ」を、実現し保持するのだ、というのが移籍の目的でした。例会場、お食事の品質、週報の精度と品格、会員の男女比率、外国人比率、職業分類、国際ロータリーへの貢献度、地区への貢献度、本会計とニコニコ会計の分離、など肃々と実現して来ました。「お蔭さまで、」の気持ちを更なる品格向上につなげるのです。



## 2009-10 年度会長 山中祥弘

## 「エンジョイ・ロータリー・ライフ」

創立5周年を迎え、クラブ・テーマは浅田直前会長の「エンジョイ・ロータリー」を継承し、さらに、ロータリーでのご縁が人生の大切なライフ・スタイルになればと思いつ「エンジョイ・ロータリー・ライフ」とさせていただきました。記念行事は「ロータリーの未来」について裏千家第15代家元の玄室様にお話をいただきました。また、「国際ロータリー意義ある業績賞」を当クラブにいただいたのも光栄でした。「六本木ロータリー」らしさは輝きを増し、会員であることを誇りに思います。今後も奉仕活動を通して皆様とロータリー・ライフをエンジョイしたいものです。



## 2010-11 年度会長 篠塚 博

## 「未来を見据えて」

当クラブは、東京西RCの50周年記念事業として2004年11月22日に会員41名で創立されました。創立当初より「地域密着型」のクラブとして環境・教育に注力し、ロータリークラブの原点である「奉仕」に努め、2代目幹事として、「環境シンポジウム」も開催させて頂きました。また、私の会長年度に起きた東日本大震災を忘れる事はありません。復興はまだですが「未来を見据えて」日本の再興を願っております。東京六本木ロータリークラブの「ブランドの確立」を目指し会員各位と楽しいロータリーライフを送りたいと思います。



## 2011-12 年度会長 安井悦子

## 「心の花を咲かせよう、がんばろう日本!」

前年度に3.11の大震災が起き、ロータリーが本格的な東北復興支援を開始した年度でした。六本木RCも津波被害に遭われた小・中学校の要請に応じた「今、必要なもの」を寄贈しました。寄贈で訪れた被災地は被害の傷跡も生々しく、現在まで続く復興支援の継続を心に誓いました。また、RIの「ポリオ撲滅2億ドルチャレンジ」の最終年度でしたので、ロータリー創立記念日に併せて六本木ビルズに「END POLIO NOW」のメッセージを投影するイベントを開催。一般の方にも多数参加して頂き、冬の寒い一日でしたが心温まるイベントになりました。故人になられた片倉ガバナーとご一緒に点灯のボタンを押したことも懐かしい思い出です。



## 2012-13 年度会長 松島正之

## 「風に向かって、風とともに」

皆さんと取り組んだイベントが懐かしく思い出されますが、特に印象深いのは、国際奉仕として、ミクロネシア短期大学に日本語教育資材の支援を始めたことです。贈呈式では、学生が日本語の歌を上手に歌ってくれました。また、2750地区のボンベイロータリーと交流することもできました。東日本大震災の被災者支援の取り組みを継続し、地元の郡山RCとタイアップして、疎開を余儀なくされていた飯館中学校の生徒に運動部のユニフォームを寄贈したことです。ユニフォームに着替え、運動に興じる生徒の顔は喜びに輝いていました。



## 2013-14 年度会長 平松和也 (故人)

## 「生きること活かすこと」

9年目年度は「生きること活かすこと」をテーマに、ロータリアンであることを生き方の礎にしようという趣旨のRI会長の考えを受けて活動しました。同時に、10周年という節目を目前にして、東京六本木RCが経てきた10年がこうであったという、当クラブのカタチを見いだしたいと考えた1年でした。「エレガントなクラブ」が、私が抱いているイメージです。奉仕活動を地道に続けて、会員各自が職業奉仕を実践して、会員相互が楽しく交歓できていること及びゲストビジターから訪ねる価値のある例会だと喜んで頂けていることを心がけました。



## 2014-15 年度会長 山本良樹

## 「Thank You, Rotary」

ロータリークラブに参加して奉仕と親睦の機会が増えたことに感謝の念に溢れています。「ロータリーに感謝」の意を込めて10年目のテーマは「Thank You, Rotary」です。ロータリーの精神を学んで、奉仕の精神を日常的な活動にもつと広げることができることに気付かされました。広尾RCを中心となっているケニア水支援プロジェクトに参加いたしました。また、交換留学生の受け入れにも取り組み、東北への復興支援とミクロネシア短大日本語学科への支援の継続が私たちの奉仕の中心として位置づけられた年となりました。



## 2014-15 年度会長 深田 宏

## 「楽しいロータリーを」

ロータリーのメンバーは、それぞれ相当多忙な日常を送っている。そのような者達が、週に一回集まる上に、いろいろのオブリゲーションを負っている。したがって、ロータリーは楽しい会でなければならず、会員は仲良くロータリーの良さを共有すべきである。

例会での卓話や会員相互の交流を通じて有益な知識を増進させること、それぞれの能力に応じて社会奉仕の実をあげることなど、会員になって良かったと皆が思えるようなロータリーを会員相互の協力により実現する。それこそが我々ロータリアンの目指すべき道だと思います。



## 2015-16 年度会長 角山一俊

## 「ロータリーで友情を育もう」

ロータリーに集う仲間たちが、本当に親しくなり、友情を深めていくことが、ロータリーの活動の原点であり、ロータリーの活性化につながると考えるからです。ポール・ハリスが、ロータリーを創設した理由が「さびしかったから」であるとは有名な話です。ロータリーを通じて眞の友人をつくることにあったのです。それぞれの職業分野を代表する会員が、毎週集い、語らい、共に奉仕活動を行う団体は、他になく、家族を除けばこれほど密度の高い人間関係も稀です。会員相互の親交を深める為に、親睦の機会を多く設定し会員全員がより親しくなるようします。



## 2016-17 年度会長 渡辺美智子

## 「Enjoy 例会! Enjoy 奉仕! Enjoy Rotary!」

全会員参加型の運営を図り、会員相互に育んだ友情の絆をお一層深いものにし、例会に、奉仕に、ロータリー活動を全会員でEnjoy!したいと思います。

クラブの10年後、20年後を見据え、クラブに相応しい会員となるよう、クラブ内での新会員への研修プログラムを検討して参りたいと思います。



## 2017-18 年度会長 斎藤明子

## 「和気藹々」- 笑顔で元気に六本木らしく -

和やかで楽しい気分が満ち溢れている東京六本木ロータリークラブが今までと変わりなく、魅力ある例会・身近な奉仕・楽しいイベント企画を実施し、会員同士の友情を育みましょう。

そして積極的にロータリー活動に参加し、ロータリーを再確認して各会員のパワーアップ=(イコール)クラブのパワーアップに繋げていきたいと思います。

☆誰かがするのではなく、自分たちが行動すること!!!☆



## 2019-20 年度会長 安部義彦

「つなげよう、つながろう、新しいやり方で」  
(Connect and Be Connected in Innovative Manners)

クラブメンバーが地域や様々な職業の方等をつなげる力になると共に、メンバー自身も新しいつながりを得られる一年になるように、という思いを込めています。

ロータリー本来の目的達成に必要なものとそうでないものを見分け、メンバーが一層チームワークを発揮、資源集中し、完璧主義にとらわれず、「ベストエフォート」の考えにシフトし、運営していかたいと考えます。



## 2020-21 年度会長 高柳公康

## 「気軽に、チャレンジ、Rotary」

例会や活動に気軽に参加していただき、会員同士の繋がりや、コミュニケーションを大切にして、クラブ活動が楽しく、「やっぱり六本木が良いな」と思える環境作りを目指します。クラブが、今後も継続して成長していく為には、環境変化に適応できる様、些細なことでも、色々なアイデアや新しいやり方を、誰でも提案したり、発信したりできる、拒絶しないでそれに耳を傾ける、そんなクラブの雰囲気やクラブの形づくりにチャレンジしていきたいと思います。



## 2021-22 年度会長 柏原玲子

## 「つなげようロータリーの 和!」(=和・輪)

「 和 !」には「和」と「輪」の意味があり、「和」は和合・平和・和み・親和・調和などの「和」。ロータリアンの心と心がつながり、お互いに友情や信頼、笑顔でつながって活動することを示します。「輪」は文字通りサークルの「輪」。五輪の標章(シンボルマーク)が5つの輪でつながっているように、私たちの活動の輪が地域つながり、社会つながり、世界へと次々につながっていく。そのようなロータリーが目指す理念を、このテーマに込めさせて戴きました。



## 2022-23 年度会長 今村道子

## 「楽しもうロータリー! フайнコミュニケーションで」

ファインコミュニケーションは「会員やまわりの人たちとの対話を大切にしよう」という気持ちを込めて探した言葉です。ひとり一人の会員が、ファインな気持ちや状態でいられるように、配慮のある対話を重ねることでお互いの思いを知ることから活動の方法を探していくことを基本にしたいと考えています。私たちがファインな気持ちで楽しそうに例会に参加し、親睦を深め、積極的に奉仕活動を行っている姿をイメージしながら今年度も皆さんと一緒に六本木ロータリーらしい経験を重ねていきたいです。



## 2023-24 年度会長 鳥居正男

## 「楽しく一緒に気分よく」

六本木RCの一番のすばらしさは、居心地のよさです。品の良い雰囲気を保ちつつ、新しい仲間を暖かく受け入れるオープンさを兼ね備えた居心地のよい風土がしっかりと根付いています。「楽しく一緒に気分よく」メンバーでいることがよい気分、例会参加がよい気分、イベント参加がよい気分、ニコニコボックス協力がよい気分、奉仕活動がよい気分、とメンバーと一緒に過ごすことを通じ仲間意識が強まり、気分がよくなるクラブになるようにしたいとの思いを込めました。例会やイベントへの参加が義務感からではなく、仲間と会いたい、話したいなと思えるようなクラブに。



## 2024-25 年度会長 小篠ゆま

## 「感謝とリスペクトで紡ぐ明るい未来」

東京六本木ロータリークラブ創立20周年の年になり、そこには素晴らしい歴代会長と会員の皆様が育んで来られた厚い信頼と深い友情。そしてこのクラブらしい個性と品位。会員の皆様が感じられて来られた居心地の良さと、身の丈に合った活動。改めてその素晴らしさを確認し、それを基軸に更にアップグレードして参りたいと思います。長年このクラブが築いてきた素晴らしい活動と、それぞれのキャリアにリスペクトし、また新しい知識や事柄に柔軟に対応し、共に奉仕活動ができる事への感謝の気持ちを持って、進化した六本木RCの姿を共に創造して参りたいと思います。



## 2025-26年度会長 平川 彰

## 「ONE TEAM 多様性を楽しもう」

創立20周年の節目を終えた本年度は、改めてクラブの特徴である多様性に富んでいながらチームワークが良いという強みを生かした活動を展開し、次の20年に繋げる第一歩としたいと思います。会員の皆様は異なる背景・性別・年齢などの多様性を前向きに受け止め、その豊かさを楽しむ姿勢で、他者を尊重し、新しい視点や経験から学び更に成長する機会へと繋げて、お互いにできることを補完しあい、より豊かなクラブライフに繋げてきました。本年度はこの素晴らしいをさらに継続し、発展させて行けるように、ロータリー活動を楽しみ、チームワークを強固にし、良い事の為に手を取り合っていきたいと思います。



## 2026-27年度会長予定 高倉 太郎

職業分類 弁護士

推薦人:今村道子 安井悦子

入会年月日:2019/3/4

2021-22年度 幹事

2022-23年度 理事、広報委員長

2023-24年度 ニコニコBOX委員長

2024-25年度 20周年親睦担当委員長

クラブ表彰・財団・米山・表彰:財団の友、米山功労者

## 創立20周年記念委員会活動履歴

2023年1月:創立20周年記念実行委員会創設

実行委員長:高柳公康 副委員長:片岡雅敦

20周年記念実行委員会の運営・統括・管理・調整

記念事業推進委員長:安井悦子 副委員長:松島正之

記念事業並びに寄付先の選定

親睦担当委員長:高倉太郎 副委員長:岩成尚

親睦ツアーなど企画

総務・庶務担当委員長:鈴木聰子 副委員長:小笠裕子

地区とのスケジュール調整、費用などの管理

広報担当委員長:齋藤明子 副委員長:柏原玲子

他地区、他クラブへの案内・広報・参加調整

記念例会担当委員長:渡辺美智子、副委員長:荒木敬子

記念例会講演・エンターテイメント・会場・進行・企画

2023年12月:20周年記念例会のエンターテイメントとして、NHK交響楽団の弦楽四重奏の出演を承諾して頂く。

2024年2月:20周年記念事業として、公益財団法人結核予防会への寄付実施を理事会決議

同時に、尾身茂理事長に20周年記念講演を承諾して頂く。

2024年7月:20周年記念年度スタートにつき、20周年ロゴを使用したデザインへクラブ名刺などを変更



2024年7月:案内パンフレット第一弾完成。地区、他クラブへ案内開始。HPへも掲載。

2024年9月:2750地区内クラブへ、20周年記念例会案内キャラバン開始。12月末までに約70クラブへ訪問。

2024年10月:20周年記念移動例会・親睦旅行 倉敷ツアーを実施。

2024年10月:東京六本木ロータリークラブホームページを10周年のリニューアル以来、20周年記念完全リニューアル実施。

2024年12月:公益財団法人 結核予防会本部にて贈呈式を実施  
同月に寄付先である結核予防会「新山手病院」、介護老人保健施設「保生の森」を訪問。

2025年1月27日:東京六本木ロータリークラブ創立20周年記念例会・祝賀パーティを350名のご出席により開催。

## 「六本木RC オリジナルロータリーソング」

## ロータリーの花

作詞・作曲 水島 裕

## 世界のどこかで

作詞・作曲 水島 裕

シカゴで生まれた  
ロータリーの芽  
世界の人が育てた  
その志 日本で継がれ  
奉仕の花が開いた  
皆の豊かな暮らしと心願い  
ロータリー ロータリー  
大きく進もう  
ロータリー ロータリー  
大きく進もう

世界のどこか 爭いが続く  
世界のどこか 貧しい国  
世界のどこか 自然が消える  
世界のどこか 病める人々  
ラララ ロータリー 力あわせ  
人々を 守ろうよ  
ラララ ロータリー 力あわせ  
人々を 支えよう  
人々を 支えよう

「故 水島 裕」さんからのメッセージ

「ロータリーの花」は、スイスの湖のほとりにたたずんだ気分で浮かんだメロディーであり、それにロータリーの歴史を詩として付けたものである。前半は軽やかな(allegretto)、後半は力強い(maestoso)曲である。

「世界のどこかで」はごく最近ロータリーのために作ったもので、前半は、世界で起きている悲しい出来事を短調気味の曲(dolce con lamento)に乗せ歌い、後半は行進曲(marcato)に仕上げた。

いずれも、詩・曲とも平易なので他のロータリークラブでも是非歌っていただきたいと望んでいる。



## 水島 裕 みずしま ゆたか

1933年9月22日 - 2008年5月7日

東京六本木ロータリークラブチャーターメンバー

2006-07年度 東京六本木ロータリークラブ会長

聖マリアンナ医科大学名誉教授として、感染症対策をはじめ

医師・医学博士として環境問題の重要性を強く訴えて以降東京六本木ロータリークラブは「環境」を重要なテーマとし奉仕活動を続けて参りました。また水島会長は音楽家でもあり六本木RCのオリジナルロータリーソングの「ロータリーの花」と「世界のどこかで」の2曲を作詞作曲され、私達は20年間大切に歌い継いでいます。

## クラブの軌跡

2004	11月 創立総会
2007	「環境シンポジウム」主催。地区より『ガバナー賞』を受賞
2008	会員増強・拡大及び各分野でバランスよく活動したことに対し、国際ロータリーより『2007-08 年度会長賞』を受賞
2009	地域中学・高等学校への「環境教育及びキャリア支援事業」に対し、地区より『ガバナー特別賞』を受賞
2010	創立五周年記念式典開催  2009-10 年度の社会奉仕活動に対し、国際ロータリーより『RI 意義ある業績賞』を受賞
2011	親睦と奉仕に対するロータリーの献身の実践に対し、国際ロータリーより『2010-11 年度会長賞』を受賞
2012	東日本大震災支援「沿岸被災地小中学校支援プロジェクト」に共同参画  2011-12 年度の五大奉仕部門における業績により、国際ロータリーより地区で 1 クラブ対象の『2011-12 年度 チェンジメーカー賞・ゾーンレベル大規模クラブ部門』を受賞。併せて、国際ロータリーより『2011-12 年度 チェンジメーカー賞』を受賞  会員増強とロータリー財団に関する卓越した実績に対し、国際ロータリーより『2011-12 年度会長賞』を受賞  地区内で会員維持率の最も高いクラブとして、国際ロータリーより『RI 会員増強・拡大賞』を受賞  ポリオ撲滅広報イベント「END POLIO NOW」の開催。地区より『地区特別広報賞』を受賞  「END POLIO NOW ロータリー 2 億ドルチャレンジ」への寄付に対し、ロータリー財団より感謝状を受領  1 ロータリ一年度に、会員全員が 100 米ドル以上の寄付を達成。『100 パーセント「財団の友」会員クラブ』のバナーをロータリー財団より受領  1 ロータリ一年度に、会員全員の寄付により一人当たりの平均寄付額が 100 米ドル以上を達成。『毎年あなたも 100 ドルを』クラブのバナーをロータリー財団より受領
2013	ミクロネシア連邦ポンペイ訪問『ミクロネシア短期大学への日本語教育資材支援』  東日本大震災復興支援活動『福島県飯舘村立飯舘中学校へのユニフォーム寄贈』  地区内で会員維持率の最も高いクラブとして、国際ロータリーより『RI 会員増強・拡大賞』を受賞  会員純増 3% 以上または純増 5 名以上達成したクラブとして、地区より『会員増強功労賞』を受賞  7 月 1 日在籍者が 4 月 30 日まで在籍している退会者ゼロクラブとして、地区より『会員維持優秀賞』を受賞
2014	東日本大震災復興支援『東松島市の再建する幼稚園に放送設備を贈るプロジェクト』  地区より『2013-14 年度新しい風賞』受賞 ・ 2013-14 年度ロータリー財団「一人当たり寄付優秀クラブ」第 2 位 ・ 2013-14 年度ロータリー財団「地区重点目標達成クラブ」  ロータリークラブ・セントラルを通じて戦略目標を設定した熱意に対し、国際ロータリーより『2013-14 年度ロータリークラブ・セントラル賞』を受賞  東日本大震災復興支援「東松島市への避難経路整備の為の工具機材寄贈」  12 月 創立 10 周年式典
2015	「ノーベル生理学・医学賞受賞」山中伸弥先生講演会

2016	2015-16 年度青少年交換プログラム感謝状授与  2015-16 年度「My Rotary 登録優秀クラブ賞」受賞 2015-16 年度米山記念奨学会より、寄付が 1 千万円に達した事により、感謝状授与  第 500 回例会が開催
2017	2016-17 年度 ガバナー賞「ミクロネシア日本語学習支援事業」受賞 米山記念奨学会 1 人平均 2 万円寄付達成クラブ表彰
2018	2017-18 年度 ガバナー賞（国際奉仕部門） ロータリー財団 3 部門達成クラブ 米山記念奨学会 1 人平均 2 万円以上寄付達成クラブ  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（10 回目）
2019	2018-19 年度 ガバナー賞（国際奉仕部門） ロータリー財団寄付三部門達成クラブ 米山記念奨学会 1 人平均寄付 2 万円達成クラブ  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（11 回目）  7 月浅田ガバナーキックオフパーティ開催
2020	2 月六本木 RC がホストクラブとしての地区大会開催  東京六本木ロータリークラブ 15 周年記念事業として山中伸弥教授（2012 年ノーベル生理学・医学賞）の京都大学 ips 細胞研究所 CiRA（サイラ）へ 50 万円寄付  2019-20 年度 RI より 「Every Rotarian, Every Year」受賞 100% ロータリー財団寄付クラブ受賞 End Polio Now「歴史を作るカウントダウン」キャンペーン感謝状授与  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（13 回目）
2021	2020-21 年度 ロータリー財団寄付 3 部門達成クラブ 米山記念奨学会 1 人平均寄付 2 万円達成クラブ  5 月「六本木クリーンアップ」警視総監より感謝状とメダルを授与  2020-21 年度 RI より 「RI ロータリー賞」と「RI ロータリー財団賞」受賞
2022	2022 年度より、浅田会員が一般財団法人『比国育英会バギオ基金』会長に就任いたしました  2021-22 年度 RI、地区より受賞 「RI ロータリー賞」と「RI ロータリー財団賞」 ・ 奉仕の心でつながりま賞 ・ My Rotary ガバナー特別賞（100% 登録） ・ ロータリー奉仕デー賞 ・ ロータリー財団寄付特別 3 部門達成クラブ ・ 会員増強 3% 純増達成 ・ 米山記念奨学寄付金達成 ・ クラブ戦略計画賞  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（14 回目）
2023	2022-23 年度 RI、地区より受賞 「RI ロータリー賞」と「END POLIO NOW 支援」 ・ ロータリー財団寄付特別賞（3 部門達成） ・ 米山記念奨学会 1 人平均寄付 2 万円達成クラブ  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（15 回目）
2024	10 月 倉敷 大原美術館へ 20 周年記念懇親旅行  米山奨記念学会表彰 米山功労クラブ（16 回目）
2025	2025 年 1 月 27 日 創立 20 周年式典

# 創立 10 周年記念例会・祝賀会

創立 10 周年記念例会は「共に暮らせる未来を」をテーマに 2014 年 12 月 8 日 17 時からグランドハイアット東京 グランド ボールルームにて開催されました。

当日は、スポンサークラブの西ロータリーメンバー 44 人に見守られ、遠くは台北の桃園蘆竹ロータリークラブから 18 人が出席、総勢 246 人の参加者を得て、盛大な会とすることが出来ました。

第一部の記念例会は『感謝』をテーマに 10 年の歩み・記念事業報告をいたしました。

第二部の記念講演では『学び』をテーマに、2012-13 年度国際ロータリー会長の田中作次様をお迎えし、10 周年実行委員長の平松さんの質問に田中様が答える形式で行われました。田中様は平松委員長の突っ込んだ質問にも気さくにお答え下さり、会長時代の生活の様子や国際ロータリー活動を分かりやすく窺い知ることが出来ました。



創立 10 周年を記念して RI 第 2750 地区 ロータリー財団委員長 鈴木義明様、米山記念奨学委員長 波多野容子様に寄付目録を贈呈いたしました。また、台北の桃園蘆竹ロータリークラブから記念品を頂きました。

第三部の祝賀会の部では、『友情』をテーマに、津軽三味線セ三味ストリートと、バイオリニスト小松原未衣さんの和洋楽器の共演、そこへ、けん玉チャンピオン伊藤祐介さんのパフォーマンスが加わり大いに盛り上りました。今回は海外からのお客様も多数いらっしゃって下さったので、日本の文化を感じていただける良い機会になったと思います。また、華やかで元気なアトラクションは「次の 10 年に向けて頑張ろう。」という気持ちにさせてくれました。



最後は、手に手の大合唱で締めくくりました。数時間の催しでしたが、私達、東京六本木ロータリークラブの 10 年間の実績が凝縮された素晴らしい記念例会・祝賀会となりました。



# 「ノーベル生理学・医学賞受賞」山中伸弥先生講演会

2015-16年度の社会奉仕活動として、2015年11月4日(水)に東京六本木ロータリークラブは、東京西ロータリークラブと共同で、ノーベル医学・生理学賞受賞者であり京都大学iPS細胞研究所(CiRA)所長である山中伸弥教授を招いて「iPS細胞がひらく新しい医学」と題した講演会及び食事会をグランドハイアット東京「グランドボールルーム」にて開催し、ロータリー会員を中心に420名以上の方にご参加いただきました。

参加者は、約1時間の講演の後、グランドハイアット東京のコースディナーを堪能し、大変有意かつすばらしい時間を過ごすことができました。

2006年に山中伸弥教授率いる京都大学の研究グループによって初めて作られたiPS細胞は、人体のほとんどの細胞を作ることが可能な細胞であり、その研究は再生医療や新薬開発に欠かせないものとなっています。

講演会はiPS細胞の最先端研究について山中伸弥教授から直接お話を伺いました。

なお、講演会の参加費の一部(4,207,150円)は、iPS細胞の研究、ひいては医療の発展に役立てればとの思いを込めて、iPS細胞研究基金へ寄付されました。



京都大学iPS細胞研究財団への東京六本木ロータリークラブからの継続的な寄付に対し、山中伸弥理事長より、安部義彦2019-20年度会長へ感謝状が授与されました。



## iPS細胞研究基金について

京都大学iPS細胞研究所(CiRA)では下記ウェブ・サイトで寄付を受け付けております。

<http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/about/fund.html>

iPS細胞の研究はこの数年間で劇的に進展していますが、その医療応用は、まだ道半ばです。研究の進展・拡大に伴って、公的資金源では力迫不及いく、研究者・研究支援者の安定的雇用のための資金や特許に関する係争、災害による備蓄細胞の損失といった様々なリスクに対応するための資金が不足しています。iPS細胞技術を患者さんのもとに届け、多くの難病や怪我を治療できるようになるまでに弊クラブからも皆様の同基金への温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

## バナーの制作意図

当クラブのバナーは、六本木の丘にそびえるビルをモチーフにしています。

また、奉仕の理想を追求するロータリークラブとして地域に深く根を張り、

かつ世界へのアピールを目指すクラブをイメージしています。

テーマカラーは暖色を基調としたグラデーションにより、社会とクラブの発展を現しています。



# 東京六本木ロータリークラブがホストクラブとしての地区大会開催

国際ロータリー第 2750 地区 2019-20 年度ガバナーに就任された、淺田ガバナー年度が 2019 年 7 月よりスタートし、2020 年 2 月 24 日 18 時よりグランドプリンスホテル新高輪パミール館にて地区大会インターナショナルナイトが開催されました。

新型コロナウィルスの影響が心配される中、マスク着用と手指のアルコール消毒による体制での開催となりました。

今回はパラオ・ミクロネシア・台湾の方々は参加されませんでしたが、PBG からグアム・サイパンから 23 名の方々に参加していただき、皆でディナーを堪能いたしました。

淺田豊久ガバナーから小池百合子東京都知事へ車椅子の贈呈が行われました。寛仁親王妃信子殿下もご臨席され、東京西ロータリークラブ一中節同好会による淨瑠璃一中節「現代の都」「都若衆萬歳」「石橋」の 3 曲が披露されました。その後、ガバナー挨拶、メルナーアイザック PBG ガバナー補佐による乾杯。

エンターテインメントではカトーエミイ舞踊塾フラアーツのお子様達のフラが披露され、お子様達のフラは大変可愛らしく、PBG の方からもお褒めのお言葉をいただきました。

姉妹地区である第 3650 地区朴秀夫総裁よりご挨拶いただき、歓談の後、18 時に閉宴となり地区大会一日目が終了となりました。

翌 25 日は 10 時半より会長・幹事会、13 時から本会議が開催され、参加国国旗の入場からはじまり開会点鐘、ロータリーソング斉唱、物故会員への黙祷、来賓紹介、姉妹地区第 3650 地区紹介、参加クラブ紹介、RI 会長ビデオメッセージ、姉妹地区ガバナー挨拶と続き、寛仁親王妃信子殿下にご臨席賜り記念講演を賜りました。妃殿下のご体験をもとにしたお話は大変分かりやすく貴重な講演でございました。



その後、各種委員会報告、決議委員会報告、大会決議案協議採択、ガバナーエレクト挨拶、ガバナーミニー挨拶、青少年活動報告と続きます。

エンターテインメントでは、東京六本木ロータリークラブ会員カトーエミイさんの「舞踊塾フラアーツ」の皆様による古典フラ・現代フラが披露されました。一日目のお子様達のフラとは違い、大人数の女性の方々が躍るフラは迫力があり圧巻でした。



さらに、寄付の贈呈、長寿会員表彰、ボッチャ大会の表彰、ホストクラブ会長謝辞、次期ホストクラブ会長挨拶、ガバナー謝辞が行われ 18 時過ぎに閉会となりました。

18 時半から予定していました懇親会は新型コロナウィルスの影響により中止となりましたが 2 日間の地区大会が盛会に終了致しました。

最後に東京六本木ロータリークラブの皆様、準備に携わってくださった地区役員の方々、ご参加してくださった方々、お手伝いご協力いただいた方々、すべての皆様に心より感謝申し上げます。

# ジェニファー・ジョーンズ RI 会長をお招きして山の手東グループ合同例会

2022年11月17日(木)ホテルニューオータニ東京『鳳凰の間』にて、ジェニファー・ジョーンズ RI 会長をお招きしての山の手東グループ 11 クラブ合同例会が開催されました。ジェニファー会長が入場され 11 クラブ会長と共に開会点鐘、国歌斉唱では、東京六本木 RC 合唱団と原宿 RC 粟津幹事のアカペラによるカナダ国歌 "O CANADA" ジェニファー会長の驚きの表情、そして笑顔と温かい拍手。思い出に残るものとなりました。その後、11 クラブより「国際奉仕」「3.11 復興支援」「地域奉仕」の 3 つの柱で取り組んできた奉仕活動のビデオ紹介です。六本木 RC のグアム友情の奨学金、六本木クリーンアップやインターンシップ活動も紹介。続いて PBG が取り組んでいる Christmas Drop Project についてビデオ上映。米軍はじめ各国の空軍が参加する大規模なプロジェクトで大変興味深いものでした。



渡辺ガバナー補佐の二か国語での挨拶後、当地区に加入 50 周年の PBG メンバー約 30 名がオンラインで合同例会に参加されたことは、とても意義のあることだと思います。いよいよジェニファー会長のスピーチとなり、私たちの奉仕活動についても大変興味を持って下さり、自分が目で見て体感したこと、経験した奉仕活動をロータリーの外に向け自分の言葉で発信していくことの大切さについて、また、世界 7 地域を巡るインパクトツアーで彼女が経験したことをお話くださいました。全てを包み込むオーラで、会場中が魅了された時間でした。



Q&A では、六本木 RC の "What motivates you to be active in service?" の質問に、"people" とお答えになったことも印象的です。

富澤ガバナーの乾杯後、会食となり、環境にも健康にもサスティナビリティに配慮したメニューをいただきました。食後のコーヒーは原宿 RC がサポートされている "僕らは耳で焙煎をする" コーヒー豆を使用。各テーブルは委員会や役職ごとに座り、短い時間ではありましたがクラブを越えての交流も図れたのではないでしょうか。

食後は "Welcome Jennifer!" と書かれたハート型のメニューカードを皆で掲げ、『Imagine』の大合唱。

その後、閉会点鐘をもって終了。

退場曲『Celebration』に合わせて踊りながら退場されるジェニファー会長のお茶目な一面も拝見することができました。

皆様ありがとうございました。



## 2023年4月親睦旅行 出雲ツアー

2023年4月11日・12日に出雲へ総勢26名での旅行移動例会・親睦旅行を実施いたしました。11日の懇親会には岩成さんのお父様である大社ロータリークラブの岩成健治様もご参加ください、出雲大社でご神酒として使われている日本酒2本の差し入れまで頂き、皆でご相伴に預かりました。2日目は朝から出雲大社で正式参拝をさせて頂きました。出雲大社教の権宮司（ごんぐうじ）である千家隆比古（せんげながひこ）様のお話を伺えたことも岩成さんのお父様のご手配でした。ご縁に感謝するばかりです。その後、お昼からは、大社ロータリーにお邪魔し、お弁当を食べて、例会にメーキャップさせて頂きました。岩成さんとお父様の岩成健治様が繋げてくださった大社ロータリークラブと六本木ロータリークラブのご縁が未永く続きますように。



## 2023年10月 金沢北RC50周年記念例会親睦ツアー

2023年10月3日、4日に「金沢北RC50周年記念例会親睦ツアー」を親睦ツアーには18名の方に、記念例会と祝賀会には23名の方にご参加いただき実施いたしました。3日12時にホテル日航金沢のロビーに集合し、貸切りバスで金沢城を見下ろす小高い丘の上にある六角堂さんに移動し、美味しい鉄板焼きを堪能しました。次に金沢城公園と兼六園を観光し、ホテルに戻り、夕方5時からは金沢北ロータリークラブ様の50周年記念式典と祝賀会です。東京六本木RCの他に、京都洛北RC、東京小石川RC、相模原南RC、金沢百万石RCなど約200名もの方が出席されていました。閉会後、六本木RCのメンバーで2次会として金沢西茶屋街の「美音」に伺いました。角山さんと宮下さんの小唄に合わせての芸妓さんの日本舞踊やお座敷遊びで楽しい時間を過ごしました。10月4日の二日目は、4名の方で谷口吉郎記念館を観光されました。

2日間内容の濃いツアーとなりました。



## 創立20周年記念移動例会・親睦旅行 倉敷ツアー

創立20周年記念の移動例会・親睦旅行として、2024年10月28日～29日に岡山県倉敷市を訪問しました。岡山訪問は、10月21日の例会で卓話を頂いた大原謙一郎様が名誉館長を務めておられる大原美術館を見学するとともに、大原様が名誉会員である倉敷ロータリークラブとの親睦を深めるためです。

東京六本木RCから25名、倉敷RCから大原謙一郎名誉会員、藤南一朗会長、秋岡秀典幹事ら14名の皆様にメーキャップにお越し頂き、総勢39名で、10月28日17時から東京六本木RCの移動例会及び懇親会を「倉敷アイビースクエア」にて行いました。小篠会長のご挨拶の後、倉敷RCの藤南会長から温かい歓迎のご挨拶を頂き、バナー交換を行い、その後、懇親会、ゲーム大会、二次会まで楽しみました。

翌29日は、大原謙一郎名誉館長と、ご息女で倉敷ロータリークラブ会員でもある大原あかね様（公益財団法人大原芸術財団代表理事）のご案内で、大原家の本邸である「語らい座大原本邸」「大原美術館」を見学しました。大原本邸は、大原家の当主が代々暮らした歴史ある建物であり、大原家の「生き方」を感じられる展示が盛りだくさんでした。また、大原美術館においては、大原名誉館長から直々に作品の解説をいただき、大変贅沢な時間となりました。倉敷の歴史と文化はもちろん、倉敷を支えてきた大原家の歴史にも触れることができ、貴重な経験であったと思います。

今回の移動例会・親睦旅行では、倉敷RCの皆様に大変お世話になりました。

これをきっかけに、両クラブの友情が様々な形でどんどん深まっていくことを、心より祈念しています。

記：高倉 20周年記念親睦担当委員長

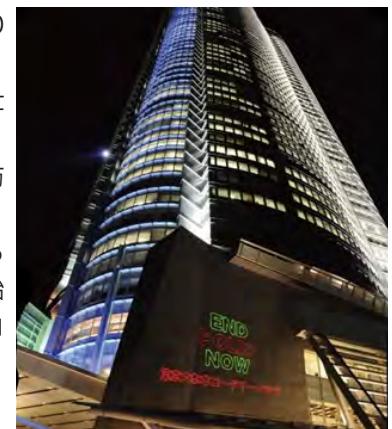


# 創立 20 周年記念事業 公益財団法人結核予防会医療品贈呈

経緯：東京六本木ロータリークラブではポリオ根絶活動として、2012年2月東京で初めて『END POLIO NOW』のメッセージを六本木ヒルズに投影しました。

クラブでは、ポリオ根絶活動に継続的に取り組んでいたことから、20周年記念事業としてポリオ関連の奉仕事業が展開できないか検討をしていたところ、2023年10月15日の日経新聞に掲載された尾身茂様とポリオの関係を知り、尾身様が、現在は結核という感染症対策に取り組んでいることや、公益財団法人 結核予防会という組織の存在を知りました。

結核予防会もロータリーのポリオ根絶活動と同様に、結核根絶のために様々な活動をしているので、こちらの団体を支援することを東京六本木ロータリークラブの20周年記念事業として2024年の初めより検討開始いたしました。その後、2024年2月に結核予防会様へ、支援協力のご相談と尾身茂理事長の東京六本木ロータリークラブ創立20周年記念例会での講演依頼が決まりました。



## 結核予防会医療品贈呈概要：

2024年4月に結核予防会様への支援協力のご相談の結果、結核予防会様の運営する施設への物品寄付になりました。

予算は、地区補助金を活用し、不足分はクラブ資金より捻出。

寄付先：結核予防会「新山手病院」、介護老人保健施設「保生の森」

寄付品：歩行車×8台、ポリカーボネート製マグカップ×200個、ナースコールマット×1セット、超音波・赤外線ナースコール×1セット 計 590,883 円相当



贈呈式：日時：2024年12月5日(木)10:00～10:40 公益財団法人 結核予防会本部

出席者：結核予防会：尾身茂理事長、前田秀雄副理事長専務理事、前川慎悟理事総務部長、永田容子事業部長、佐藤奈津江事業部募金推進課、鎌田春香事業部募金推進課、東京六本木 RC：小篠ゆま、堀井健一、劔物美紀子、高柳公康



贈呈式では、当クラブより、目録を贈呈、結核予防会様からは、感謝状をいただきました。

2024年12月16日(月)には寄贈先の結核予防会「新山手病院」、介護老人保健施設「保生の森」を訪問し、寄贈品は、各施設の利用ニーズや必要性が高いという事で、非常に歓迎されました。

# 創立 20 周年記念例会・祝賀パーティー

2025年1月27日、東京六本木ロータリークラブ創立20周年記念例会・祝賀パーティーをグランドハイアット東京にて350名のご出席により開催致しました。第一部の創立記念例会は、15時開会点鐘、国歌斉唱、会長挨拶、ご来賓紹介に続き、伊藤ガバナー、水野RI理事、武田西RC副会長より来賓のご挨拶をいただきました。その後、浅田PGよりクラブ創立の振り返りをお話いただき、20年の歩みを動画で見て、20周年記念事業を安井20周年記念事業委員長よりご報告し、第一部は閉会点鐘となりました。



第二部は、16時から、会場をグランドボールルームに移し、「公益財団法人 結核予防会理事長 尾身茂様」をお迎えして「ポリオ根絶について皆様への感謝と今後の期待」と題した記念講演を開催しました。講演では、ロータリーのポリオ根絶活動について非常に期待していると、お話をいただきました。20周年記念寄付として、2750地区ロータリー財団、米山記念奨学会、比国育英バギオ基金への寄付目録の贈呈をいたしました。



第三部は、17時より祝賀ディナーです。清家愛 港区長ご臨席のもと、元RI理事・パストガバナー辰野様の乾杯にて華やかに開会しました。350名様を超える方々にご出席いただき、グランドハイアット東京ならではのスタイリッシュコースディナーをご提供し、食後はNHK交響楽団メンバーによる弦楽四重奏を披露、クラシックから映画名曲まで優雅なひとときをお楽しみいただきました。



最後に六本木ロータリークラブ合唱団によるオリジナルソング「世界のどこかで」「ロータリーの花」を披露し、閉会となりました。



創立20周年記念実行委員会の皆様を中心にご準備から当日までご尽力いただきましたすべての皆様に感謝申しあげます。

# クラブの活動拠点「グランドハイアット東京」

## 東京六本木ロータリークラブへご入会ください

変化を生み出すロータリーの力の源は、世界46,000以上のクラブで活動する140万人の会員。友情で結ばれた会員は、地元での草の根の活動から、大規模な世界的活動まで、幅広く奉仕活動に取り組んでいます。ロータリーに関心をもつたなら是非お問い合わせください。ロータリーの魅力をご案内いたします。

### 会員相互の親睦は活動の基本

東京六本木ロータリークラブの例会場は、六本木ヒルズ内にある「グランドハイアット東京」。毎週月曜日開催される例会は、美味しいお料理に加え、ジャンルを超えた各界の著名人、文化人を招いての卓話が好評のランチミーティング。週に一度の短い時間ですが、勉強と会員同士の社交の場として有意義で貴重な時間を過ごしています。

### さまざまなイベントが盛りだくさん

会員とその家族が毎年楽しみにしている年3回の夜間例会を始め、新会員を歓迎する『10 for 2』ではベテラン会員との会食で親睦を深めます。その他、ワイン同好会やゴルフ同好会、コーラス同好会など、さまざまな趣味の分野でも交流を深めています。また、六本木ヒルズ内の森美術館の鑑賞ツアーが楽しみのひとつとなっています。

### 例会



●例会（毎週月曜日の12:30～13:30）  
ジャンルを超えた著名人、文化人を招いての卓話

### 親睦



美味しいお料理が自慢



森美術館Arts鑑賞会



コーラス同好会



例会前の健康エクササイズ



年度末夜間例会



納涼夜間例会



クリスマス夜間例会



ワイン同好会



「10 for 2」



ゴルフ同好会



### 【 四つのテスト 】

一言行はこれに照らしてから—

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

#### ——クラブ概要——

名称: 東京六本木ロータリークラブ

所属地区: 國際ロータリー第2750地区

所属地域: 港区・渋谷区

スポンサークラブ: 東京西ロータリークラブ

特別代表: 佐藤晃一

(1997-98年度東京西ロータリークラブ会長)

創立: 2004年11月22日

RI加盟認証日: 2004年12月8日

認証伝達式: 2005年1月24日

例会会場: グランドハイアット東京 (TEL: 03-4333-1234)

例会日時: 毎週月曜日 (祝日の時は休み) 12:30-13:30

会員数: チャーターメンバー: 42名 (男性30名、女性12名)

#### ————事務局————

〒106-0032 東京都港区六本木6-2-35-601

TEL: 03-6721-1555 FAX: 03-6721-1556

rotaryclub6@wine.ocn.ne.jp

<http://www.tokyoroppongi-rc.jp/>

### 【 THE FOUR-WAY TEST 】

— Of the things we think, say or do. —

1. Is it the TRUTH?
2. Is it FAIR to all concerned?
3. Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
4. Will it be BENEFICIAL to all concerned?

### 【 ロータリーの目的 】

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとすること。

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。